

音楽科学習指導案

令和3年 月 日 () 第 校時

〇〇小学校 5年 〇名

指導者 〇〇 〇〇

1 題材名 和音に合わせてせんりつをつくろう

2 題材の目標

- (1) 和音と旋律との関わり、旋律のつなげ方の特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 和音と旋律との関わりや、関わりを生かした旋律をつくることに興味をもち、主体的・協動的に音楽づくりの学習活動に取り組み、ハ長調の主要三和音に親しむ。

3 教材 「児童作品」

4 題材について

本学級の子どもたちは、明るく元気で、音楽科の学習に対しても意欲的である。歌ったり、リコーダーなどの楽器で表現したりすることに楽しんで取り組むことができている。前年度の学習では、7つの音（ドレミファソラシ）の中から好きな音を選び、旋律をつくる活動や、和楽器やリコーダーでお囃子をつくる活動に取り組んだ。それらの活動を通して、子どもたちは自分たちで旋律を生み出す楽しさや面白さを味わうことができた。しかし、活動の中で自分なりの思いや意図をもち、それを音楽づくりに生かすというところまでには達していない。

そこで、本題材では旋律と和音の響きについての理解を深め、それを用いて思いや意図をもった音楽づくりができるようにしたい。「茶色の小びん」は、「主要三和音」による典型的な和声進行をもっている曲である。音楽づくりの手がかりとして「茶色の小びん」の和音進行を用い、和音と旋律の関わりをとらえながら旋律づくりをすることができるようにしたい。

和音に合わせてポーズをして和音の響きの特徴を感じ取ったり、「続く感じ」や「落ち着く感じ」について理解を深めたりすることで、全体のまとまりを意識することができるように学習を進めていく。また、旋律づくりを行う時は、すぐに旋律を決めてしまうのではなく、実際に音で試したり、思いや意図を伝え合ったりする場面を取り入れ、試行錯誤しながら一人一人がお気に入りの旋律をつくることができるようにしたい。

5 学習指導要領との関連

A 表現 (3) 音楽づくり ア (イ), イ (イ), ウ (イ)

[共通事項] (1) ア





(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音楽の縦と横の関係」)

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知和音と旋律との関わりや旋律のつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。</p> <p>技思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横の関係をを用いて、音楽をつくる技能を身に付けている。</p>	<p>音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>和音と旋律との関わりや、関わりを生かした旋律をつくる活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

7 指導と評価の計画（本時4／5時間）

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価（◆評価方法）			要素
		知・技	思	態	
第一次	◎和音やその移り変わりを聴き比べたり、和音を演奏したりする活動を通して、音楽の縦と横の関係について考えながら、和音と旋律の関わりについて理解する。				音楽の縦と横の関係
	<p>1 ●和音を聴き取り、その響きの特徴や違いを感じ取る。 ・和音に合わせてポーズをする。 ・「茶色の小びん」に合わせて和音を演奏する。 ・「続く感じ」や「落ち着く感じ」について気付く。</p> <p>2 ●和音と旋律の関わりについて考える。 ・「茶色の小びん」の楽譜を確かめながら、旋律の各小節のはじめの音と和音の構成音が合っていることに気付く。 ・和音に合わせて即興的に旋律をつくってみる。</p>	<p>知 ◆観察 ◆動画 ◆記述</p>			

第 二 次 本 時	◎和音と旋律の関わりについて考えたり全体のまとまりを意識したりしながら，工夫して旋律をつくる。				
	3 ●4小節の旋律をつくる。 ・I，IV，V，Iに合った旋律をつくる。 ・旋律の各小節のはじめの音と和音の構成音が合っていることや，「続く感じ」「落ち着く感じ」について確かめる。				
	4 ●前時に自分でつくった旋律をもとに，8小節の旋律をつくる。 ・実際に音を出して試しながら考える。 ・旋律がある程度でき上がったら，友達と聴き合う。			  ◆観察 ◆記述 ◆動画	
5 ●つくった旋律を紹介し合う。 ・前時でつくっていた旋律を完成させたり，旋律を見直したりする。 ・和音に合わせて，つくった旋律を演奏する。 ・音楽づくりを通して学習したことについて振り返る。		 ◆動画 ◆観察		 ◆観察 ◆記述	

8 本時の学習

(1) 目標

和音の響きと旋律の関わりについて考え、関わりを生かした旋律をつくる。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○前時までに学習した和音の響きの特徴や、旋律との関わりについて確認する。	
和音に合わせて せんりつをつくろう。		
2 旋律をつくるための見通しをもつ。	○4小節の旋律を例示し、旋律づくりのポイントを確認する。 ・最初の音は和音の構成音にすること。 ・4小節目は「ミ」にし、続く感じにすること。	
3 和音（I, IV, V, I）に合わせて旋律をつくる。	○和音伴奏の音源を繰り返し再生できるようにし、試しながら旋律をつくるができるようにする。 ○気に入った旋律は録音し、次時の学習に生かすことができるようにする。	◇音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 ◆観察（発言） ◆動画 ◆ワークシートの記述
4 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	○次時の学習への意欲を高める。	

(3) 評価及び指導（手だて）

A（十分満足できる）と判断される具体的な状況	和音の響きの特徴を生かし、「始めの音」や「終わりの音」を理解し、4小節のまとまりのある旋律をつくっている。
B（おおむね満足できる）状況を実現するための具体的な指導（手だて）	・4小節の旋律を例示し、旋律をつくる時のポイントを確認する。 ・使う音を7音から4音程度に絞ったヒントカードを用いて、音をつなぐことができるようにする。